
黒い正義

ChildSky

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

黒い正義

【Nコード】

N1079J

【作者名】

ChildSky

【あらすじ】

人当たりもよく、誰からも好かれる簷城寺司。えんじょうじ つかさ

いつもどおり平凡且つ幸せな毎日を過ごしていたが――…

『君は僕と一緒に戦うために生まれたんだ。』

音を発しないⅡ喋らないと思っていた由々浦影馬に、至極当然かのようになくちぶりである日そう宣告された。

『君がシーグになってくれないと、力を発揮できない。』

すでに裏の世界、つまり非日常では戦いが行われていると言うのだ。
日常は日常、非日常もまた日常。

善と悪、互いの正義が戦い続け、
世界は混沌へと陥っていく。

そんな中に、「ローゼス」と名乗る中立立場の軍が出現した。

彼らはなぜ戦うのか、

そして、ローゼスと影馬との関係は！？

はたまた司の存在する理由はいかに――。

全ての歯車が同刻を刻みなおし、理を解したとき、
世界は1筋の道を辿りはじめる。

中立立場者の作文。

『2学期を振り返って』

2年2組 由々浦 影馬

一年が短い。そう感じたことはないだろうか？

感情、つまり人の記憶に対する思いというのは面白い所があり、人それぞれで感じ方が違う。

もし仮に全ての人の価値観・思想が同じならば、争いの「あ」の字も生まれやしない。

逆に言えば、人それぞれの価値観・思想が違うから、様々な文化が生まれ、幾多もの発展や成長が繰り返されたのだ。

それゆえに「悪」は、必ずしも悪とは限らない。

そもそも「悪」とはなんなのか。

これもまた人によって、どのようなものが「悪」なのか違いが出てくる。

そしてそのもろもろの「悪」をひっくりめたとしても、

「悪」は「悪」なりの「正義」を貫いているにすぎないのだ。

さらに「善」もまた、「善」なりの正義を貫いてきたにすぎないのだ。

つまり、正義と言えども、

それは自分の考え方にすぎず、自分と意見が食い違う奴を、敵、と自分できめつけているのだ。

「善」という名の正義は、「悪」という名の正義を勝手に「敵」と定義付け、

「悪」という名の正義は、「善」という名の正義を勝手に「敵」とみなした。

そこから見解の相違が生まれる。

互いを知りもせず、ただ互いの互いを敵と決め付けて。

理を解することで、

戦いは治まる。

僕はこれを証明したくて、戦ってきた。

だが僕にはシーグがない。

音が発せなければ僕はいつまでたっても、
勝つことはできない。

《コメント》

君は喋らないので作文を楽しみにしていましたが、意味がわからなすぎです。

むしろ不気味です。

シーグってなんですか??

職員室までこいといっても、君はこないと思うのでいいませんが、
来週までに書き直してくるよう。

中立立場者の作文。(後書き)

初回ということで、今回あとがきを書かせていただきます！
音を発しない少年影馬。あ、ちなみに影馬↑はようまと読みます、
はい。

まあ、現実とは裏腹に物語を進めていくつもりです。

時折、なんだかんだ現実をはさみこんでいけたらいいと思います。

音の交わり 其の壱

佑也^{ゆうや}「司ー？ご飯食べよー。」

司「あ、おう。」

その声に答え、いつもの場所に集まる。

僕は簷城寺司^{えんじょうじつかさ}。

大浦川学園高等部の1年生で、まあ、ほどよい日々を送っている。

光輝^{こうき}「そいえばさあー、もうちょっとで文化祭じゃなかったっけ？」

司「アホか。この前終わったばかりじゃねーかよ！」

光輝「そいえばさあー、もうちょっとで文化祭じゃなかったっけ？」

一言一句間違はなく復唱する。

司「・・・」

いつもに至るが、こいつはバカだ。

またさらに純は当然スルー。

佑也は、24時間同じと思われる満面の笑み。

光輝「そいえばさあー、もうちょー」

司「おい純！！なんか言ってやれ！」

・・・。

ちよっとの沈黙。

純一「死ねばいいと思う。」

司「だ、そうだ。」

光輝「聞こえてるよ!!」

わーきゃーわーきゃー。

光輝のおなじみハイテンションにもひと段落、
時間もそこそこののでそろそろ食べ始めるとしよう。

そういえば僕のクラスには不思議、いや、摩訶不思議な少年がいる。
その席をちらりとみたが、そこには虚空が広がっているだけだった。

それにきづいた純が珍しく口を開いてきた。

純一「どうした？」

司「あ、いや・・・なんでも」

純一「そうか」

深く追究してこない。

珍しいがためにちょっと心外でもあり、聞き返してしまった。

司「な、なんだよ」

純一「いや、別に」

そういつてまた食べ始める。

僕はこのときまだ知らないのだ。

これから辿る運命を。

全てが壊れることを。

音の交わり 其の壺（後書き）

時間になってしまったー＞＜
この続きはまたいつか。

音の交わり 其の貳

この日は晴れだった。
嫌になるほど、晴れだった。

僕は午後の授業そっち退け、
相変わらず空をぼんやりと眺める。
佇む雲が、僕みたいだった。
行く先は果て。
そんなことを知りもしないで、進んで行く。

英語T「こら簷城寺君！」

僕は白くて大きいそれに見蕩れていた。

渚「司呼ばれてるよっ」

と、幼馴染み兼恋人の緑原渚に小突かれる。

司「はいいい！！」

びっくりしたー。

なにより自分の声にびっくりしたー。

英語T「全く。ちゃんと聞いてなさい！この英文を訳してっ」

僕はバカだ。

無論、勉学的な意味ではなく。

勉強なら、その一つのことを考えればいい。

同時にふたつのことを考える、それが僕にはできないからだ。

だから彼の存在にも、盲点があったのだ。

放課後。

いつものように佑也達や渚と一緒に帰る。

僕達は徒歩通だ。

そんなに近くもなく、そんなに遠くもない、
それ相応な距離だ。

沙結「帰り、ちょっとカフェよって行かないー？」

と切り出してきた。

時間も頃合、ちょうど3時を回ったところだった。

渚「うん、そうしょっ♪」

それに乗る渚。

司「食べすぎ注意だぞ」

渚「い、言われなくてもわかってるよっ…!!」

おお、そうかそうか。

そういつてカフェに入った。

平凡だ。

僕はこういう普通な『普通』が大好きなんだ。

店員「ごちゅうもんは何にしますか？」

お。

司「ホットコーヒー。砂糖3つで」

自称、普通。他称、甘党。

渚「取り消しっ！ 司のはホットコーヒーで、砂糖いっこ！」

そういうだろうよチクショウ！！

それと、『いっこ』くらい漢字で書けよ・・・作者。

…まあ、いいか。

世話を焼かれるのは、嫌いじゃない。渚だからな。

沙結「佑也、私達邪魔じゃない？」

佑也「あはは」

渚「な、なに言って…」

実は、告白してきたのは渚からだった。

今だにそういう話になると、顔が赤くなる。

司「よしよし」

そういつて頭を撫でる。

渚「わ、わっ！！！」

赤い顔が更に赤くなる。

ざまーみろ。砂糖減らした罰だ。

その後も和気藹々、なんだかんだ楽しかった。

佑也「じゃあ、またね」

司「おう、沙結には気をつけろよ」

沙結「ちよっとどゆ意味！？」

司「冗談だって」

あはは、と軽い冗談をいいながら笑う。

渚「じゃあ、また明日っ」

佑也達と別れて、自分達の帰路につく。背を向けて。

渚「司っ、手、つなご？」

司「お、おう」

手と手が触れ、重なる。

さすがに恥ずかしい…。

恋愛物語じゃないんだぞ、これ。

人には福もあれば、災もある。

まだ福、つまり幸せしか見たことない僕は、この先どうなるのだろうか。

否、渚と共に、乗り越えて行くのだろう。

しかし、そんな淡い想いは、
幻想にすぎなかったのだ。

渚「じゃあまた明日ねっ」

司「うん、またな」

そういつて、自分の家に入ろうとした：

でも、目の前にはあいつが立っていた。

僕の人生をめちゃくちやにし、破乱させた、中立立場者が。

クラスメイトで、音を発しなかった、由々浦影馬が。

影馬『待っていたよ、司君』

音の交わり 其の貳（後書き）

こんにちは、Childskyです。

やっとなつと影馬が出てきました！

カフェに入ったのは、ちよつと司と渚の恋人風景を見せようかと…

（笑）

そんなこんなで、ちよつとずつ本編に突入です！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1079j/>

黒い正義

2010年10月9日01時48分発行